

サポートRST

令和3年6月4日発行
発行：相馬市教育委員会
作成担当：相馬市公立学校研究指導員会

今年度、相馬市の学力向上重点施策のひとつに「RST」があります。RSTの視点を意識した授業展開を推進することで、読解力向上を図ることがねらいです。各校においても、昨年度のRSTの結果をもとに、教材研究や発問、板書、学習プリントの作成などの授業改善に生かされていることと思います。

この「サポートRST」では、相馬市公立学校研究指導員会の研修内容や各校の取組について紹介していきますので、授業改善の一助としていただければ幸いです。

RS（リーディングスキル）に関する相馬市の学力向上施策

RSの向上とICTの活用が、令和3年度の重点施策であることは、すでにご理解いただいていると思います。特にRSに関する内容は、次の通りです。

◇ 学力向上・授業改善

- 現職教育の活性化
 - ・ 全体研修の実施
 - ・ RS向上を意識した取組等の日課表への位置付け
- RSTの6つの視点を意識した授業展開の工夫

◇ 家庭学習の充実

- 読解力育成のための「読んで考えて書く課題」（週末課題や新聞活用事業）の継続
 - ・ 新聞記事・新聞コラムの要約等
- 教科書の音読、視写

◇ RST（リーディングスキルテスト）

- 受検対象者 小学校6年生，中学校1，2，3年生，昨年実施していない教員
- 実施時期 9月中
 - ・ PCまたはiPadにより受検。
 - ・ 各校での分析と実践の絞り込み

◇ 研究指定校による授業公開

- 期 日：11月26日（金）
- 会場校：中村第一小学校
中村第一中学校
- 参加者：市内小・中学校教員予定

課題意識をもって、参観
しましょう！



RSを意識した授業展開とは

第2回相馬市公立学校研究指導員会の研修において、一般社団法人教育のための科学研究所 上席研究員 目黒朋子先生から、「RSの授業に方法が確立したものはありません。日々の積み重ねが大切です。すぐに実践してみましょう。」と投げかけがありました。

すでに紹介や確認が終わっている小・中学校があると思いますが、目黒先生の講話内容及びRSを実践している東京都板橋区での一例を裏面でご紹介します。



1 語彙を増やす

- 子どもたちが躓きそうな学習に必須の語彙を事前に把握し、意味を理解させてから授業を受けさせる。
例「桁をずらす」「230あまり」「～にしめる（割合）のしめる」「クレーン車のうで」など

2 考える音読

- 「どう読めばよいか」「どこを意識すればよいか」などの視点を与えることで、考えざるを得ない音読をさせる。
例「算数の文章題で、分かっていることに下線、聞かれていることに波線を引きなさい。」
例「大工場とはどんな工場か、教科書のどこに書いてあるか探してみよう。」

3 視写活動

- 単語や文節、文のまとまり、助詞や文型を意識して書くことで、語彙を増やす。マスからはみ出さずに、読み手が読める文字で書く。
例 週1回、朝の活動や授業で実施。3分間で何文字書けるか。
例 共書き（教師が黒板に書く速さと同じ速さで、子どもがノートに書き写す。）

4 「係り受け解析」の視点で

- 主語を入れ替えて、文を書かせる。
例 1 d Lで、板を $4/5$ m²ぬれるペンキがあります。このペンキ $2/3$ d Lでは、板を何m²ぬれますか。 → 板を $4/5$ m²でぬれるペンキの量は、()です。

5 「イメージ同定」の視点で

- グラフから比較対象の違いや読み取れることを書き表す。
例「グラフを見て、□□と△△の違いを文章で書きましょう。」
→「どれだけ」にあたる修飾語や形容詞が使えない子どもが多いため、教師が『○○さんは、「圧倒的に」「ほとんどの」「3分の2程度」の言葉を使ったよ、かっこいいね。』と称賛することで、語彙を共有すると、より身に付く。

6 「同義文判定」の視点で

- 「この2文は同じ意味ですか。」と問うことで、同義文判定をさせる。
例「重工業では大工場の方が多い」⇔「重工業では大工場の生産額の方が多い」

7 「推論」の視点で

- 「どうして～だろう？」と問うことで、推論をさせる。
例「どうして、ここに工場が集まっているのだろう。今挙げた特徴から考えてみよう。」

今回ご紹介した内容は、RS向上への取組の一例です。

まずは、RSTの6分野（係り受け解析、照応解決、同義文判定、推論、イメージ同定、具体例同定）の中から最低1つ、日々の授業に取り入れてみましょう。そして、同学年やブロック、職員室でRSを話題にすることで、同僚や先輩方から助言をもらったり、次の授業の参考にしてみたりしてはいかがでしょうか。教科書と言葉を大切にした授業をコツコツ積み重ねていきましょう。

各校で盛んに実践が進められ、小さな蓄積が積もっていくことを期待しています。次回の「サポートRST」では、各校の取組の具体事例をご紹介します予定です。